



株式会社富山第一銀行様

導入サービス

マネージドクラウドサービス on AWS

情報系基盤を全面的にAWSへ移行

クラウドの利用によってコストに対する意識が変化

AWSの構築・運用・監視はインテックがオールインワンで対応



株式会社富山第一銀行は富山県富山市に本店を置き、創業以来赤字決算が一度もなく、健全な財務環境で地域経済を支えている第二地方銀行です。近年では仮想通貨の実証をいち早く行うなどの先進性を持ち、システム面ではインテックが運用をサポートして、富山の地で共に歩んできました。今回、同銀行がオンプレミスのサーバをクラウドへ移行するにあたり、インテックの「マネージドクラウドサービス on AWS」を導入しました。このサービスは、インテックの豊富な経験や知見を用いて、AWSの構築・運用・監視をオールインワンで対応し、運用負荷軽減のために、AWS運用代行やお客様専用ダッシュボードを提供しています。導入の経緯や効果について取締役 事務統括システム部長の長谷聡氏と事務統括システム部の栃原広城氏にお話を伺いました。

課題

保守期限のたびに大きなコストが必要 クラウド導入をどう認めてもらうかが鍵

— マネージドクラウドサービス on AWSを導入する前に使われていたシステムはどのようなものでしたか。

長谷：富山市内に総合事務センターがあり、そこにサーバを置いて運用していました。インテックのデータセンターも活用しています。

栃原：移行前のシステムとしては、物理サーバ複数台で仮想サーバを運用する形を取っていました。管理や運用についてはインテックに担当していただいています。

— マネージドクラウドサービス on AWSを導入した経緯は何でしょう。

栃原：これまで使用していたサーバの保守期限切れが迫っていたことです。今後どうすべきか検討していたところ、インテックから複数の提案をいただき、その中の1つであるAWSへの移行を採用することにしました。従来通りのオンプレミスで物理サーバをリプレースする案もいただきましたが、再び保守期限が迫ってくると同じようにプロジェクトを立ち上げて移行する作業が必要になります。クラウドではその必要がないということが決定の大きな要因です。また、インテックには元々当行のシステム運用全般を担当していただいているので、そのまま継続して運用をお願いした方が安全に移行でき、安定した運用ができると考えてお願いすることにしました。

— オンプレミスからクラウドへ移行することについて懸念はありましたか。

栃原：クラウドを利用するのは初めての取り組みでしたので様々な不安はありました。今までは、データセンターの所在を明確にしてサーバの運用をしていましたが、クラウドでは当行のデータ資産がどこに保管されているかわからない中で運用することになります。その中で、当行システムの安全性を確保することが課題でした。

長谷：実務の担当者はそのあたりを理解しながら企画決定していくわけですが、経営側に対してどう説明するかが問題で、そのコンセンサスを取るのが大変でした。ただ、物理サーバでは保守期限のたびに予算を取らなければならない、クラウドへ移行すればあとはランニングコストだけで済むという点と、金融庁も認めているという事例を示して理解を得ることができました。

導入システム

マネージドクラウドサービス on AWSの導入にインテックの知見を活用

— マネージドクラウドサービス on AWSの導入にはどのような準備をされましたか。

栃原：各パッケージベンダーに移行について問い合わせをするなどの調整を行いました。その上でまずテスト環境に移行して問題ないことを確認してから本番環境へ移行しています。

— 導入時のインテックとのコミュニケーションはいかがでしたか。また導入時に問題はありましたか。

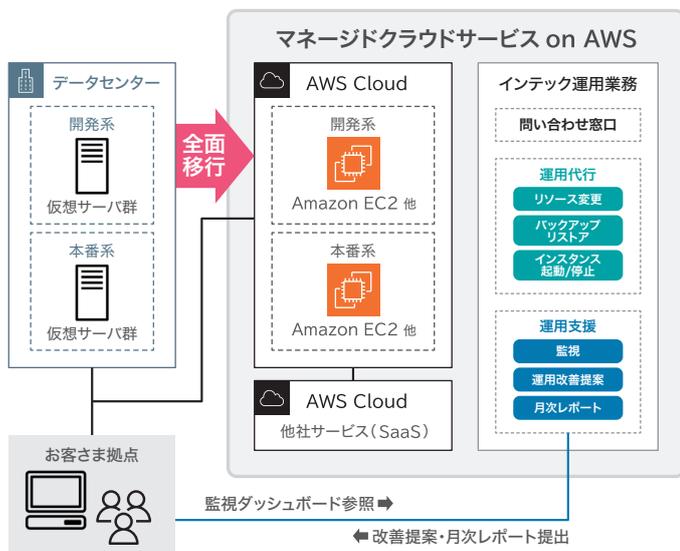
栃原：インテックからは当行に常駐して管理・運用していただいているので、そちらの担当者と相談しながら進めました。パッケージベンダーとの打ち合わせなどにも参加してアドバイスをいただきました。これまでのシステムのことを熟知している方々なので大きな問題はありませんでした。

— マネージドクラウドサービス on AWS導入後は以前と比べて何か変わりましたでしょうか。

栃原：コストに対する意識です。これまでは定額でサーバを稼働させていましたが、AWSの場合は使った分の従量課金なので、これまであまり考えずに使っていたシステムについて、夜間使わないものは停止させてコストを下げるといったことを行うようになりました。また、クラウドの場合は必要最小限で構築して少しずつ増やすことができるので、いまは使わないのですが将来的に必要なからというコストが発生しないのはメリットです。

— 新たに生じた課題はありますか。

長谷：不測の事態が起きたときに対する対策です。先日、能登半島地震が発生しましたが、AWSのデータセンターは耐えられるのか、東京や大阪に分散させなければいけないのではないかと、



うBCPの観点について考えて、再度検討していかなければならないと思っています。

効果と展望

サーバレスのサービスという選択肢が増え自前のサーバを用意しなくていい

— マネージドクラウドサービス on AWSを導入したことで実現したことはありますか。

栃原：いわゆるサーバレスのようなサービスを利用するという選択肢が増えました。これまでは自前でサーバを立ててシステムを稼働させなければならなかったことが、サーバを立てなくても利用できるようになりました。また、既存システムの負荷分散にも使えるのではと思っています。

— マネージドクラウドサービス on AWSの導入を検討している企業にアドバイスはありますか。

長谷：クラウド利用の課題は、セキュリティや自社のデータを外部に預けることへの懸念から、社内理解が得がたいことだと思います。現場ではクラウドを導入していかなければという危機感がありますが、経営側に案を上げた途端に話が通らないというギャップがあります。そうしたとき、最終的な理想ではなく、スモールスタートでやってみようという提案をするのがいいと思います。

栃原：コスト面では、従来通りに物理サーバを用意すると大きな初期コストをかけなければなりません。クラウドではランニングコストだけで済みます。またセキュリティ面でも、最近よく話題になるインシデントの多くが設定ミスです。しかしマネージドクラウドサービス on AWSなら、専門知識を持つインテックの担当者に構築からお願いできるので、安心して運用できます。

— インテックへ今後の要望はありますか。

長谷：一番聞きたいのは事例です。導入してどう変わったのか、社内コンセンサスをどう取ったのか、という事例をどんどん開拓していただきたいと思います。

栃原：現場からの要望としては、本格的に導入を決める前にテスト環境があると非常にありがたいです。社内の経営側に説明する際も、テスト結果があると納得を得られやすいです。インテックには今後も期待しています。

Company Data

株式会社富山第一銀行

1944年に中越無尽株式会社、無尽公司共益株式会社、明正無尽株式会社が合併し、富山合同無尽株式会社を設立。1951年に株式会社富山相互銀行へと商号変更し、1989年に普通銀行に転換。株式会社富山第一銀行へと商号変更した。「限りなくクリア(透明)、サウンド(健全)、フェア(公平)」を経営理念として市場から評価される銀行を目指し、健全経営・効率経営に積極的に取り組んでいる。